ご挨拶

第 55 回熊本県医学検査学会
学会長　　廣瀬　里子

この度は、第 55 回熊本県医学検査学会を県北地区担当で開催させていただくことになりました。実行委員を代表しましてご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスの流行に伴いあらゆる分野の活動が大きく変化しました。そして第 8 波の流行を終え 5 月上旬には感染症分類 5 類に変更されることになります。巷では「〇年ぶり開催」とよく耳に致しますが、この医学検査学会も 4 年ぶりに終日現地開催とランチョンセミナーを行う事になりました。特別講演では、くまもと県北病院副院長　溝部孝則先生により「当院における新型コロナウイルス感染症診療の経験」と題してご講演をいただきます。

前・前々回学会長が新型コロナウイルスの感染状況に神経を尖らせ苦労されながらも、次の時代の臨床検査技師のあり方を模索され実行された事を受け、この学会のテーマを『再開～そして挑戦』にいたしました。コロナ禍前の状況に戻せるものや消えてしまったもの、また Zoom や LIVE・オンデマンド配信による学術活動への参加スタイルが変化し、時間や場所を越え学べる機会が増えています。臨床検査技師も細分化され各分野のスペシャリストや認定資格取得に邁進して来たことも、もちろん間違った目標ではなかったものの、新型コロナウイルスの流行で日頃は携わらない PCR 検査を、分野を超え業務に従事し、また現場の仲間がコロナ感染や濃厚接触者により戦線を離脱せざるを得ない状況に、１人で何役も熟さなければならない事態になった施設も有ったと思われます。臨床検査技師としてある水準までの知識と技術を維持向上させ続ける事の大切さを痛感いたしました。今後タスクシフティングによる新たな分野の知識および技術の習得はもちろん必要ですが、“ 学び直し”も十分大切な事だと思われます。また、医学検査以外の分野も人間性を高める上で重要です。さあ、臨床検査技師の皆さん新たなスタートを切りましょう！

最後になりましたが今回の学会を開催するにあたり、目標以上の演題をご登録いただきました。熊本県臨床検査技師会の会員の皆様、賛助会員の皆様に心より感謝申し上げます。